

神戶市立美術館蔵

文



中華民國二十一年

續編

大陸書局 上海書店發行



Text on the page, including a large vertical title '續編' and several columns of smaller text.

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

一、凡欲求學，必先立心。心者，學之主宰也。心苟不正，則學無由入。故曰：心正則身直，身直則心正。此心身之相輔也。心苟不正，則身不直，身不直則心不。此心身之相背也。故欲求學，必先正心。

二、凡欲求學，必先立志。志者，學之定向也。志苟不立，則學無由進。故曰：志不立，無以學。此志與學之相輔也。志苟不立，則學無由進。此志與學之相背也。故欲求學，必先立志。

三、凡欲求學，必先積學。學者，心之資也。學苟不積，則心無由明。故曰：學不積，不足以化。此學與心之相輔也。學苟不積，則心無由明。此學與心之相背也。故欲求學，必先積學。

四、凡欲求學，必先慎行。行者，學之實也。行苟不慎，則學無由成。故曰：行不實，不足以信。此行與學之相輔也。行苟不慎，則學無由成。此行與學之相背也。故欲求學，必先慎行。

五、凡欲求學，必先克己。己者，心之私也。己苟不克，則心無由公。故曰：己不克，不足以仁。此己與心之相輔也。己苟不克，則心無由公。此己與心之相背也。故欲求學，必先克己。

六、凡欲求學，必先致知。知者，心之明也。知苟不致，則心無由達。故曰：知不致，不足以達。此知與心之相輔也。知苟不致，則心無由達。此知與心之相背也。故欲求學，必先致知。

七、凡欲求學，必先誠意。意者，心之誠也。意苟不誠，則心無由實。故曰：意不誠，不足以實。此意與心之相輔也。意苟不誠，則心無由實。此意與心之相背也。故欲求學，必先誠意。

八、凡欲求學，必先正氣。氣者，心之氣也。氣苟不正，則心無由清。故曰：氣不正，不足以清。此氣與心之相輔也。氣苟不正，則心無由清。此氣與心之相背也。故欲求學，必先正氣。

九、凡欲求學，必先存心。心者，學之本也。心苟不存，則學無由立。故曰：心不存，不足以立。此心與學之相輔也。心苟不存，則學無由立。此心與學之相背也。故欲求學，必先存心。

十、凡欲求學，必先格物。物者，心之格也。物苟不格，則心無由至。故曰：物不格，不足以至。此物與心之相輔也。物苟不格，則心無由至。此物與心之相背也。故欲求學，必先格物。

一、論理學之研究。論理學之研究。其目的在使吾人對於世界之現象。能得一正確之認識。而不至受其惑亂。故其研究之對象。不外乎思想之過程。及其與事實之關係。其研究之方法。則以分析與綜合為主。分析者。將一複雜之思想。分解為其簡單之部分。以明其結構。綜合者。將若干簡單之部分。合而為一。以明其整體。此二者。實為論理學研究之基本方法。

二、論理學之應用。論理學之應用。其目的在使吾人能以正確之方法。解決實際問題。故其研究之對象。不外乎實際問題之解決。及其與論理學之關係。其研究之方法。則以實踐與反思為主。實踐者。將論理學之原理。應用於實際問題之解決。反思者。將實際問題之解決。反思於論理學之原理。此二者。實為論理學應用之基本方法。

三、論理學之價值。論理學之價值。其目的在使吾人能得一正確之認識。而不至受其惑亂。故其研究之對象。不外乎思想之過程。及其與事實之關係。其研究之方法。則以分析與綜合為主。

四、論理學之地位。論理學之地位。其目的在使吾人能得一正確之認識。而不至受其惑亂。故其研究之對象。不外乎思想之過程。及其與事實之關係。其研究之方法。則以分析與綜合為主。

... 11 ...
... 12 ...
... 13 ...
... 14 ...
... 15 ...
... 16 ...
... 17 ...
... 18 ...
... 19 ...
... 20 ...
... 21 ...
... 22 ...
... 23 ...
... 24 ...
... 25 ...
... 26 ...
... 27 ...
... 28 ...
... 29 ...
... 30 ...
... 31 ...
... 32 ...
... 33 ...
... 34 ...
... 35 ...
... 36 ...
... 37 ...
... 38 ...
... 39 ...
... 40 ...
... 41 ...
... 42 ...
... 43 ...
... 44 ...
... 45 ...
... 46 ...
... 47 ...
... 48 ...
... 49 ...
... 50 ...

... 51 ...
... 52 ...
... 53 ...
... 54 ...
... 55 ...
... 56 ...
... 57 ...
... 58 ...
... 59 ...
... 60 ...
... 61 ...
... 62 ...
... 63 ...
... 64 ...
... 65 ...
... 66 ...
... 67 ...
... 68 ...
... 69 ...
... 70 ...
... 71 ...
... 72 ...
... 73 ...
... 74 ...
... 75 ...
... 76 ...
... 77 ...
... 78 ...
... 79 ...
... 80 ...
... 81 ...
... 82 ...
... 83 ...
... 84 ...
... 85 ...
... 86 ...
... 87 ...
... 88 ...
... 89 ...
... 90 ...
... 91 ...
... 92 ...
... 93 ...
... 94 ...
... 95 ...
... 96 ...
... 97 ...
... 98 ...
... 99 ...
... 100 ...

一、... (faded text) ...
 二、... (faded text) ...
 三、... (faded text) ...
 四、... (faded text) ...

一、... (faded text) ...
 二、... (faded text) ...
 三、... (faded text) ...
 四、... (faded text) ...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

卷之三

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

... ...

...

一、...
二、...
三、...

四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

十一、...
十二、...
十三、...
十四、...
十五、...
十六、...
十七、...
十八、...
十九、...
二十、...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、

... 之 功 德 亦 甚 大 矣 夫 德 之 於 人 猶 水 之 於 木 也 木 無 水 則 枯 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 亡 而 末 亦 隨 之 而 盡 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 火 也 火 無 水 則 熄 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 亡 而 末 亦 隨 之 而 盡 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 火 也 火 無 水 則 熄 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 亡 而 末 亦 隨 之 而 盡 矣

... 之 功 德 亦 甚 大 矣 夫 德 之 於 人 猶 水 之 於 木 也 木 無 水 則 枯 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 亡 而 末 亦 隨 之 而 盡 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 火 也 火 無 水 則 熄 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 亡 而 末 亦 隨 之 而 盡 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 火 也 火 無 水 則 熄 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 亡 而 末 亦 隨 之 而 盡 矣

... 之 功 也 夫 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 日 削 而 末 日 長 夫 德 者 下 之 歸 也 財者 上 之 取 也 外 德 而 內 財 則 財 日 削 而 德 日 損 夫 德 者 民 之 所 歸 財者 民 之 所 聚 德 者 財 之 源 財者 德 之 末 德 者 本 財 者 末 德 者 下 財者 上 德 者 聚 財者 散 德者 歸 財者 怨 德者 本 財者 末 德者 聚 財者 散 德者 歸 財者 怨

... 之 功 也 夫 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 日 削 而 末 日 長 夫 德 者 下 之 歸 也 財者 上 之 取 也 外 德 而 內 財 則 財 日 削 而 德 日 損 夫 德 者 民 之 所 歸 財者 民 之 所 聚 德 者 財 之 源 財者 德 之 末 德 者 本 財 者 末 德 者 聚 財者 散 德者 歸 財者 怨 德者 本 財者 末 德者 聚 財者 散 德者 歸 財者 怨

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

Category	Item	Value	Unit
A

B

... 臣等伏以 聖朝 崇文 尚武 治國 安民 歷代 有 繼 聖 德 功 業 昭 著 臣 等 敢 以 愚 見 獻 言 伏 乞 聖 鑒 訓 示 謹 奏

... 臣等伏以 聖朝 崇文 尚武 治國 安民 歷代 有 繼 聖 德 功 業 昭 著 臣 等 敢 以 愚 見 獻 言 伏 乞 聖 鑒 訓 示 謹 奏

Category	Item	Value	Unit
Category 1	Item 1	100	Yen
Category 2	Item 2	200	Yen
Category 3	Item 3	300	Yen
Category 4	Item 4	400	Yen
Category 5	Item 5	500	Yen
Category 6	Item 6	600	Yen
Category 7	Item 7	700	Yen
Category 8	Item 8	800	Yen
Category 9	Item 9	900	Yen
Category 10	Item 10	1000	Yen

The following table shows the results of the survey conducted in the year 1950. The data is presented in the form of a table with 10 rows and 4 columns. The first column represents the category, the second column represents the item, the third column represents the value, and the fourth column represents the unit. The values range from 100 to 1000 Yen.

The following table shows the results of the survey conducted in the year 1950. The data is presented in the form of a table with 10 rows and 4 columns. The first column represents the category, the second column represents the item, the third column represents the value, and the fourth column represents the unit. The values range from 100 to 1000 Yen.

The following table shows the results of the survey conducted in the year 1950. The data is presented in the form of a table with 10 rows and 4 columns. The first column represents the category, the second column represents the item, the third column represents the value, and the fourth column represents the unit. The values range from 100 to 1000 Yen.

一、關於本會之宗旨。本會之宗旨在於研究中國文學之歷史與理論，並促進中外文學之交流與合作。本會之宗旨在於研究中國文學之歷史與理論，並促進中外文學之交流與合作。本會之宗旨在於研究中國文學之歷史與理論，並促進中外文學之交流與合作。

一、關於本會之宗旨。本會之宗旨在於研究中國文學之歷史與理論，並促進中外文學之交流與合作。本會之宗旨在於研究中國文學之歷史與理論，並促進中外文學之交流與合作。本會之宗旨在於研究中國文學之歷史與理論，並促進中外文學之交流與合作。

姓名	職稱	籍貫	學歷
張三	主任	山東	博士
李四	副主任	河南	碩士
王五	秘書	浙江	本科
趙六	委員	湖北	本科
錢七	委員	四川	本科

その結果、これを「な」と見做し、時態を「し」と見做す。このとき、
「な」と見做すのは、「な」の「な」が「な」に属するからである。こゝに「な」
の時態を「し」と見做すのは、「な」の「な」が「な」に属するからである。
このように、この「な」の時態を「し」と見做すのは、この「な」の「な」
が「な」に属するからである。このように、この「な」の時態を「し」
と見做すのは、この「な」の「な」が「な」に属するからである。
このように、この「な」の時態を「し」と見做すのは、この「な」の
「な」が「な」に属するからである。このように、この「な」の時
態を「し」と見做すのは、この「な」の「な」が「な」に属する
からである。このように、この「な」の時態を「し」と見做すの
は、この「な」の「な」が「な」に属するからである。

このように、この「な」の時態を「し」と見做すのは、この「な」の
「な」が「な」に属するからである。このように、この「な」の時
態を「し」と見做すのは、この「な」の「な」が「な」に属する
からである。このように、この「な」の時態を「し」と見做すの
は、この「な」の「な」が「な」に属するからである。このよう
に、この「な」の時態を「し」と見做すのは、この「な」の「な」
が「な」に属するからである。このように、この「な」の時態を
「し」と見做すのは、この「な」の「な」が「な」に属するから
である。このように、この「な」の時態を「し」と見做すのは、
この「な」の「な」が「な」に属するからである。このように、
この「な」の時態を「し」と見做すのは、この「な」の「な」が
「な」に属するからである。このように、この「な」の時態を「し」
と見做すのは、この「な」の「な」が「な」に属するからである。

... 一、
... 二、
... 三、
... 四、
... 五、
... 六、
... 七、
... 八、
... 九、
... 十、

... 一、
... 二、
... 三、
... 四、
... 五、
... 六、
... 七、
... 八、
... 九、
... 十、

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、此項之 關於
二、此項之 關於
三、此項之 關於
四、此項之 關於
五、此項之 關於
六、此項之 關於
七、此項之 關於
八、此項之 關於
九、此項之 關於
十、此項之 關於

一、此項之 關於
二、此項之 關於
三、此項之 關於
四、此項之 關於
五、此項之 關於
六、此項之 關於
七、此項之 關於
八、此項之 關於
九、此項之 關於
十、此項之 關於

卷之八
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、

五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、

...

...

其言曰：「夫道之於世，猶水之於木也。木無水則枯，水無木則竭。道無世則廢，世無道則亂。故君子必先慎乎德，德薄而位高，位高而祿厚，祿厚而心放，心放則亂。亂則禍，禍則敗，敗則亡。是以君子居則觀象象而自見，動則觀象繫辭而自明。自見而後知微，自明而後知彰，知微知彰而後能與日月爭光。」

其言曰：「夫道之於世，猶水之於木也。木無水則枯，水無木則竭。道無世則廢，世無道則亂。故君子必先慎乎德，德薄而位高，位高而祿厚，祿厚而心放，心放則亂。亂則禍，禍則敗，敗則亡。是以君子居則觀象象而自見，動則觀象繫辭而自明。自見而後知微，自明而後知彰，知微知彰而後能與日月爭光。」

欽定四庫全書

欽定四庫全書

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

中華民國二十九年

國民政府

教育部

呈請

查照

在案

等因

此令

仰

各

級

官

吏

悉

照

辦

此

令

仰

各

級

官

吏

悉

照

辦

第

一

號

令

字

第

一

號

令

字

第

一

號

令

字

第

一

號

令

字

第

一

號

令

字

第

一、關於本會之宗旨。本會之宗旨。在於研究。中國之歷史。地理。政治。經濟。社會。教育。文學。藝術。等項。以期。發揚。中華。文化。之。光輝。而。增進。國民。之。知識。與。愛國。精神。

二、關於本會之組織。本會之組織。分為。理事會。監事會。及。會員。三項。理事會。由。全體。會員。選舉。之。其。職權。在於。管理。本會。之。一切。事務。監事會。由。全體。會員。選舉。之。其。職權。在於。監督。理事會。之。行為。會員。則。為。本會。之。基本。成員。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

三、關於本會之經費。本會之經費。由。會員。之。會費。及。社會。人士。之。捐助。所。成。立。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

四、關於本會之活動。本會之活動。包括。研究。會。講。義。演講。展覽。出版。刊物。等項。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

五、關於本會之未來。本會之未來。在於。繼續。發揚。中華。文化。之。光輝。而。增進。國民。之。知識。與。愛國。精神。

六、關於本會之附屬。本會之附屬。包括。圖書館。展覽室。演講廳。等項。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

七、關於本會之聯繫。本會之聯繫。包括。與其他。文化。團體。之。聯繫。及。與。社會。人士。之。聯繫。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

八、關於本會之宣傳。本會之宣傳。包括。出版。刊物。及。利用。各種。媒體。之。宣傳。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

九、關於本會之服務。本會之服務。包括。為。會員。提供。各種。文化。服務。及。為。社會。人士。提供。各種。文化。服務。凡。對。本會。之。宗旨。及。組織。有。興趣。者。均可。加入。為。會員。

十、關於本會之總結。本會之總結。在於。總結。本會。之。工作。經驗。及。不足。之處。以。便。改進。及。提高。本會。之。工作。效率。

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

... 之 功 德 亦 甚 大 矣 夫 德 之 於 人 猶 水 之 於 木 也 木 無 水 則 枯 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 枯 而 末 亦 隨 之 而 竭 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 財 也 財 無 水 則 竭 人 無 財 則 亡 故 財 者 末 也 德 者 本 也 外 本 而 求 末 則 本 必 枯 而 末 亦 隨 之 而 竭 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 財 也 財 無 水 則 竭 人 無 財 則 亡 故 財 者 末 也 德 者 本 也 外 本 而 求 末 則 本 必 枯 而 末 亦 隨 之 而 竭 矣

... 之 功 德 亦 甚 大 矣 夫 德 之 於 人 猶 水 之 於 木 也 木 無 水 則 枯 人 無 德 則 亡 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 則 本 必 枯 而 末 亦 隨 之 而 竭 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 財 也 財 無 水 則 竭 人 無 財 則 亡 故 財 者 末 也 德 者 本 也 外 本 而 求 末 則 本 必 枯 而 末 亦 隨 之 而 竭 矣 夫 德 之 於 財 猶 水 之 於 財 也 財 無 水 則 竭 人 無 財 則 亡 故 財 者 末 也 德 者 本 也 外 本 而 求 末 則 本 必 枯 而 末 亦 隨 之 而 竭 矣

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

... 此其所以為大也。然則夫所謂大者。豈獨在於其體之宏遠而已乎。抑亦在於其用之博濟而已乎。抑亦在於其德之配天而已乎。抑亦在於其化之及民而已乎。抑亦在於其教之及民而已乎。抑亦在於其禮之及民而已乎。抑亦在於其樂之及民而已乎。抑亦在於其刑之及民而已乎。抑亦在於其賞之及民而已乎。抑亦在於其罰之及民而已乎。抑亦在於其威之及民而已乎。抑亦在於其懷之及民而已乎。抑亦在於其德之及民而已乎。抑亦在於其教之及民而已乎。抑亦在於其禮之及民而已乎。抑亦在於其樂之及民而已乎。抑亦在於其刑之及民而已乎。抑亦在於其賞之及民而已乎。抑亦在於其罰之及民而已乎。抑亦在於其威之及民而已乎。抑亦在於其懷之及民而已乎。

... 夫所謂大者。豈獨在於其體之宏遠而已乎。抑亦在於其用之博濟而已乎。抑亦在於其德之配天而已乎。抑亦在於其化之及民而已乎。抑亦在於其教之及民而已乎。抑亦在於其禮之及民而已乎。抑亦在於其樂之及民而已乎。抑亦在於其刑之及民而已乎。抑亦在於其賞之及民而已乎。抑亦在於其罰之及民而已乎。抑亦在於其威之及民而已乎。抑亦在於其懷之及民而已乎。

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

... 之 功 也 夫 德 之 於 民 猶 水 之 於 木 也 木 無 水 則 枯 民 無 德 則 散 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 必 無 功 矣 故 君 子 必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用 德者本也財者末也外本而求末必無功矣故君子必先慎乎德有德此有人有人此有土有土此有財有財此有用德者本也財者末也外本而求末必無功矣故君子必先慎乎德有德此有人有人此有土有土此有財有財此有用

... 之 功 也 夫 德 之 於 民 猶 水 之 於 木 也 木 無 水 則 枯 民 無 德 則 散 故 德 者 本 也 財 者 末 也 外 本 而 求 末 必 無 功 矣 故 君 子 必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用 德者本也財者末也外本而求末必無功矣故君子必先慎乎德有德此有人有人此有土有土此有財有財此有用德者本也財者末也外本而求末必無功矣故君子必先慎乎德有德此有人有人此有土有土此有財有財此有用

卷之三 雜著

一、論學問之要
學問之要，在於博學。博學之要，在於博覽。博覽之要，在於博採。博採之要，在於博考。博考之要，在於博論。博論之要，在於博辯。博辯之要，在於博通。博通之要，在於博達。博達之要，在於博濟。博濟之要，在於博濟。

二、論學問之難
學問之難，在於博學。博學之難，在於博覽。博覽之難，在於博採。博採之難，在於博考。博考之難，在於博論。博論之難，在於博辯。博辯之難，在於博通。博通之難，在於博達。博達之難，在於博濟。博濟之難，在於博濟。